

野生復帰家族における高山植物の供給（案）について

1. 概要

野生復帰を目的とした個体においては野生個体が保持していた腸内細菌叢を飼育下で如何に維持し、次年度生まれてくる雛に受け継ぐかが重要な課題となっている。野生個体を飼育下環境においてから既に起きている腸内細菌叢の変化には、与えている餌が大きく影響している可能性が示されている。そのため次年度の繁殖においては野生復帰の候補となる個体にできる限り多くの高山植物を給餌することが望まれる。次年度については以下に示す方法にて高山植物の確保を実施する。

2. 白馬五竜高山植物園からの供給

(1) 概要

白馬五竜植物園では令和2年度からケージ保護事業及び動物園での飼育個体へ提供するための高山植物の低地栽培を開始した。令和3年現在一部の高山植物については栽培技術の確立が進んでいるが、ケージ保護事業へまとまった量を提供できるまでには至っていない。そのため、令和4年度に白馬五竜植物園で育てた供給可能な高山植物については動物園に供給する。

(2) 提供量（2園分合計）

- ・ムカゴトラノオ 700 株
（中央アルプス産 400 株、北アルプス産 100 株、植物園に既にある北アルプス産のもの 200 株）
- ・オンタデ 100 株 （中央アルプス産）
- ・イワツメクサ 150 株 （中央アルプス産）
- ・ウラジロタデ 50 株 （北アルプス産）



写真左 イワツメクサ. 左が直播、右が途中で株毎に植え替えたもの。

写真右 左からイワツメクサ、ミヤマセンキュウ、オンタデ



写真左 2020 年秋にまいたムカゴトラノオ。左が液肥有、右が無
写真右 ムカゴトラノオのポット。写真に写っている上下2段で合計約 350 株。

(3) 植物園自生株の供給

ガンコウラン・クロマメノキ 両種とも枝先を切り取ることで提供する。



3. 高山帯からの採取

中央アルプスでは、ケージ保護等、生息域内保全のため、高山植物の一部採取が行われており、野生復帰に資する飼育園館へ提供する植物の採取は移送距離等を考えると困難である。このため、令和4年度は乗鞍岳及び那須岳から野生復帰個体へ給餌するための高山植物の採取を試みる。

乗鞍岳に関しては長年にわたりライチョウのモニタリング調査が実施されていることから植物の分布についても熟知しており、車によるアクセスが容易なことから採取植物の運搬も他の山岳よりも容易である。

一方、那須岳はライチョウが生息している山岳ではないが、野生復帰家族を飼育する那須どうぶつ王国から最も近い高山植物が分布している山岳である。また、ガンコウラン等は比較的豊富に存在し、ライチョウの飼育状況に合わせた採取を行うことができることから選定した。なお、給餌後に栽培可能な株については白馬五竜植物園の指導の下動物園で栽培を継続し、再利用できるように努める。

(1) 乗鞍岳からの採取

1) 採取種

以下の種の枝葉及び果実：コケモモ、コメバツガザクラ、ガンコウラン、イワツメクサ、クロウスゴ、ナナカマド、ハイマツ

2) 採取時期

5月上中旬から10月末まで。植物の重量を考えると車が肩の小屋口まで行けるようになってからの採取。GW明けから5月15日から実施。

3) 採取方法

複数箇所を採取候補値とし、採取した植物は登山者から目につかないよう黒いビニール袋などに入れて運搬する。残雪が手に入る場合には、袋に残雪を入れて低温で移送できるようにする。残雪がない時期には、発泡スチロールケースに雪解け水もしくは保冷剤を入れて運搬することとする。

(2) 那須岳からの採取

1) 採取種

以下の種の枝葉及び果実：ガンコウラン、シラタマノキ、クロマメノキ、オンタデ、イワツメクサ、ナナカマド、ハイマツ

2) 採取時期

5月上旬から10月末まで。ロープウェイの運行が開始され、雪解け後、5月上旬から作業開始予定。

3) 採取方法

乗鞍岳同様に複数箇所を採取候補値として選定する。基本的な手法は乗鞍岳の方法に準ずるが、雪の利用は限定的と考えられるため、保冷剤などを活用しながらの運搬が見込まれる。